

# 日本 ESD 学会ニュースレター第 4 号

2019 年 11 月 30 日

編集発行：日本 ESD 学会事務局

〒630-8528 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学次世代教員養成センター 中澤静男研究室

TEL/FAX: 0742-27-9269 E-mail: jsESD.office@gmail.com Website: <http://jsESD.xsrv.jp/>

## 目 次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ◆日本 ESD 学会第 2 回大会報告 | …1  |
| ◆地方研究会等の報告          |     |
| 2018 年度中国地方研究大会     | …5  |
| 関東地区研修・交流会          | …5  |
| 第 2 回近畿地方研究会        | …7  |
| 第 3 回近畿地方研究会        | …8  |
| ◆日本 ESD 学会第 2 回総会報告 | …10 |
| ◆日本 ESD 学会第 3 回大会案内 | …12 |
| ◆第 1 回四国地方研究会の案内    | …12 |
| ◆行事・企画からのお知らせ       | …12 |
| ◆事務局からのお知らせ         | …13 |

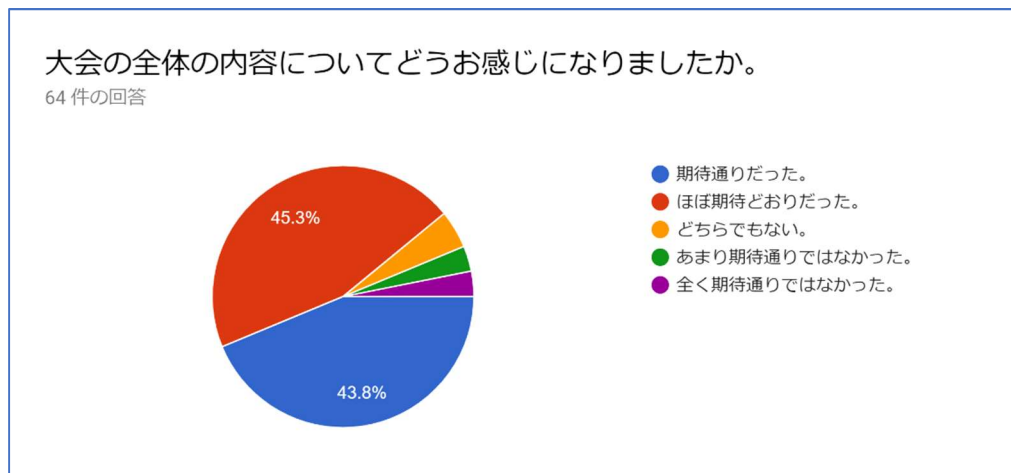
### ◆日本 ESD 学会第 2 回大会報告（2019 年 8 月 18 日～20 日 宮城教育大学）

日本 ESD 学会第 2 回大会は、2019 年 8 月 18 日（日）・19 日（月）・20 日（火）に宮城教育大学（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地）で開催されました。18 日（日）は ESD 学会評議員会と若手の会、19 日（月）は口頭発表、シンポジウム A・B、団体ブース発表、総会、情報交換会、20 日（火）は、口頭発表、ポスター発表、ワークショップが 5 件・フィールドトリップ（2 か所）が実施されました。大会の参加者総数は 214 名（若手の会参加者を含まない）でした。日本全国（そして海外）から仙台までご参加くださいましてありがとうございました。

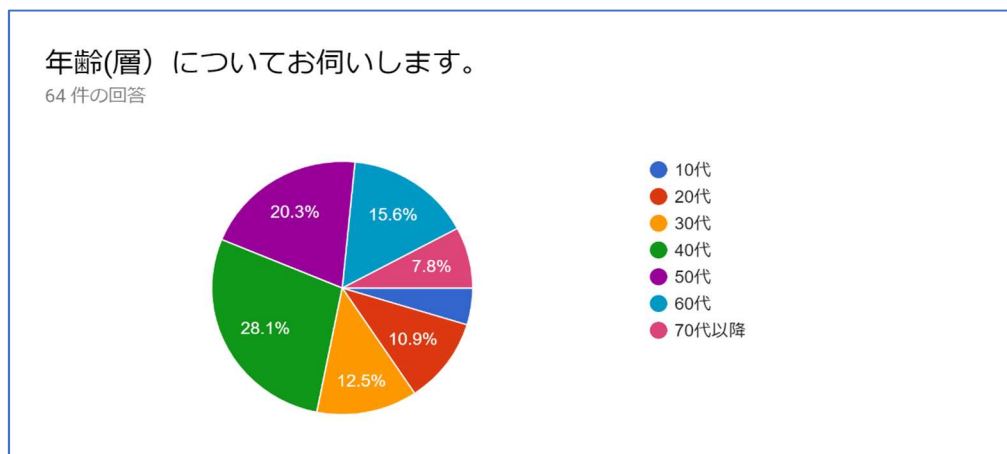


共催をいただきました宮城教育大学、東北地方 ESD 活動支援センター、協力をいただきました ESD 活動支援センタ様、後援をいただきました公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）ほか 8 団体様には、実行委員会を代表して心から御礼申し上げます。

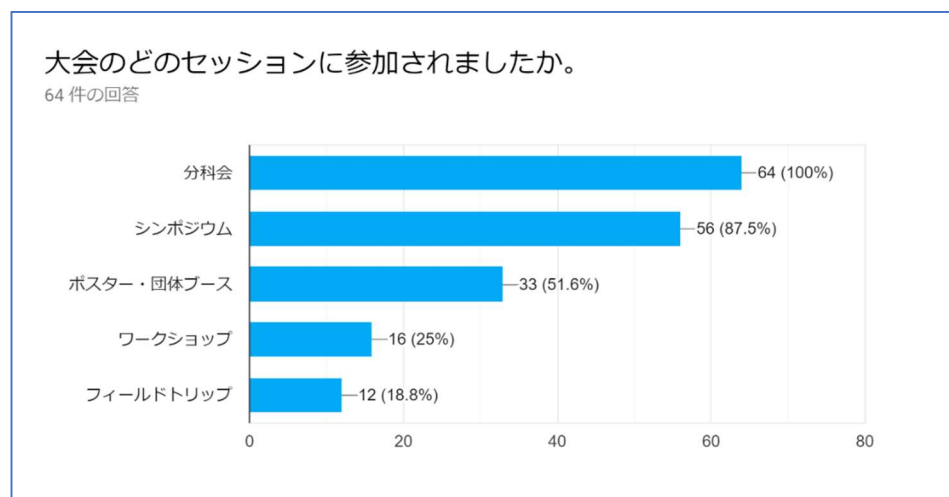
以下参加者アンケート（回収率 40%）をもとに本大会を振り返ってみたいと思います。

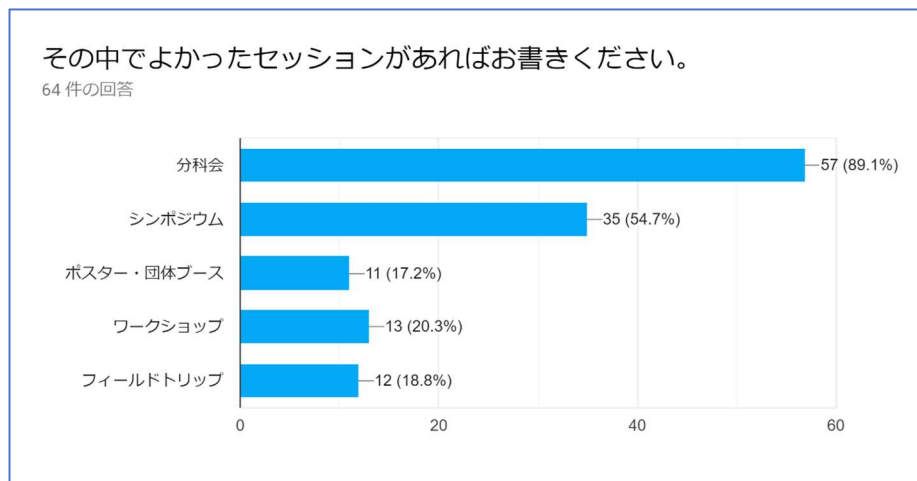


大会の内容については「期待通りだった」「ほぼ期待通りだったで、89.1%を占めているが、一方で、「全く期待通りでなかった」とする意見もあったことに留意しなければならないと思います。



今回の大会では 10 代をはじめ、各世代からまんべない参加があったことがわかります。このことは大会の成果といってよいかと思います。





今回の大会では、分科会やシンポジウムへの参加率が高いです。一方、ポスター発表、団体ブースは、熱心な発表で多くの参加者を集めました、全体の出展・発表件数が少なかったです。また、ワークショップが 5 件とフィールドトリップ（2 か所）が時間的に重なってしまったので、参加者が分散してしまったことが反省点としてあげられます。

「第 2 回大会に参加してご自身にとって得られたことがあれば簡単にお書きください。」という問いについては、「事例発表会から更に学術的な知見の掘り下げなどが面白かった。事例発表会に留まらずが、昨年よりも深い学びができた。」「ESD の視点を入れた実践のビジョンが徐々に鮮明になっていくことが楽しく、深く学ばせていただきました。」など大会に参加して理論と実践を結びつけられるようになったことについてのコメントが多く寄せられました。また、「様々な方と会えることが最大のメリットだと思います。その意味で、懇親会の果たす役割が大きいと思います。」「校種、学校内外、教科の枠を超えた交流が深められました。」などネットワークの構築の機会であることについての評価が寄せられています。

今回フィールドトリップを設けたことも評価されています。「特に持続可能な地域づくりという課題を持って取り組んでおられる方の発表が印象に残りました。同じような意味で大崎耕土フィールドトリップからもたくさんのことを学ばせていただきました。」「充実した研究成果を聞くことができ、有意義でした。フィールドトリップが、期待以上 で参加して本当に良かったと思っています。」といった意見が聞かれました。

一方、「今後の大会に向けてご要望やご提案があれば簡単にお書きください。」では、「ESD という観点では小学校での取り組みという印象を持っています。中学校や高校では、どのように進路につなげていくかという観点が大切になってくると思いますので、その点をどのように解決していくかを学校を越えて知恵を出し合って考える機会が必要だと感じました。」「中学校や高等学校の実態を知る機会があればと思います。」などのように中学高等学校の実践に対する示唆が今後必要であると思われます。

その他、「今後発表が増え、分科会セッション数がもう少し増えると良いと思います。」「団体ブースでの展示にももう少し時間的、空間的に余裕があるともっと良かったと思います。」「民間企業や財団等の力を生かしていきたいと考える。民間企業や財団等とつながることができる場があるとよい。」などの意見も寄せられました。実行委員会は大会の準備のプロセスの中で、企業を回っての協賛や協力、展示をとりつける時間を確保できませんでした。次回以降は、そうした課題を解決できるように引き継いでいきたいと思っています。最後に次のようなコメントがありましたので、本大会のまとめとしてご紹介し、締めくくりとさせていただきます。「全国の先生方のお話を聞けて大変良かったです。大会の実行委員の皆様本当にお疲れ様でした。最新の方向性、新学習指導要領との関連、評価に関する現在の位置づけなど、様々な方向から ESD を見ていくことができ、2 日間、とても有意義な時間でした。手島先生の

ワークショップでは、授業の実践例が紹介されていました。現場の一教師としては、今後の学会の中で、多数の実践例が提案、検討され、持続可能な社会の創り手の育成の方策を検討・発信していかれることを望んでいます。二日間、ありがとうございました。」

(文責 市瀬智紀)

### 日本 ESD 学会第 2 回大会に参加して

成蹊高校生徒会震災パート

日本 ESD 学会第 2 回大会は、私達成蹊高校生徒会震災パートにとって活動を校外で初めて発表する機会であり、そのような貴重な機会を与えていただいたことにとても感謝しています。

私達は唯一の高校生としてポスター発表させて頂きましたが、私たちの活動に興味を持ってくださって声をかけてくださった方が多くいらっしゃってとても嬉しかったです。東日本大震災から 8 年が経ち、岩手県田老地区の被害や復興の状況もだいぶ変わり、それと共に震災復興パートのボランティアの内容も変化してきました。私達の今の一番の目的は震災の悲劇を風化させないよう伝えること、田老の活性化のためにその魅力を発信することです。この学会に参加して多くの方に私達の活動を知っていただけたことは目標達成への一歩となったのではないかと考えています。

また、他の参加者の方々の発表やフィールドトリップを通じて多くのことを学び、これからの活動につなげていけるような新たな気付きや発見がありました。私達は SDGs の 11 番、「住み続けられるまちづくり」を念頭において活動に取り組んでいるので、防災教育、自然を生かしたフィールドミュージアム、エコパーク、自然留学など各市が地域活性化の為に取り組んでいる活動やシンポジウムで知り、とても興味深かったです。また、地域活性化について東京に住む私達が共に考えるのもいいけれど、東京にも様々な問題があるからそれらの問題について考えるのもいいのでは？というアドバイスを頂き、自分の身の回りの防災を考えるきっかけとなりました。フィールドトリップで見た仙台各地の震災遺構も心に残るものばかりでした。荒浜小学校で見せて頂いた津波の映像は、田老で見せて頂いたものともまた違って津波の怖さを改めて感じるものであり、私達の活動の必要性を改めて感じました。

今回のシンポジウムでの気付きをこれからの活動につなげ、より有意義な活動を行っていきたいと思います。

### 「若手の会」設立記念イベントのご報告

飯田 貴也 (NPO 法人新宿環境活動ネット)

2019 年 8 月の総会において、「若手の会」の発足が承認されました。「若手の会」とは、ESD をテーマに活動している若手研究者・実践者が交流することでお互いを高め合い、ESD 研究の魅力や重要性を見出し発信していくことを目的とした会で、主に 35 歳以下の会員が対象です。昨年 8 月の記念すべき第 1 回大会（奈良）の中で、若手会員の有志数名が「若手の会をつくりたい」と意気投合したことをきっかけに、長友会長や河野事務局長、第 2 回大会実行委員長の市瀬先生をはじめ多くの方のご協力をいただきながら、青山会員・神田会員・白石会員・高橋会員とともに数回の設立準備委員会を開き、1 年間準備を進めてまいりました。これから具体的な活動がスタートしますが、若手会員が ESD 研究・実践を推進していくためのプラットフォームとしての役割を果たすことで、学会全体の活性化にもつなげていきたいと願っています。

2019 年 8 月 18 日(日)に宮城教育大学を会場として、「「若手の会」設立記念イベント」を開催しま

した。当日は 18 名の参加者と多数のオブザーバーの皆様で、満席となりました。第 1 部は「宮城県内のユースの ESD 実践事例を学ぶ」と題し、「FEEL Sendai (杜の都の市民環境教育・学習推進会議)」(発表者：佐藤流晟さん(東北大学 4 年)、森康浩さん(宮城学院女子大学准教授))、「海辺のたからもの」(発表者：畠山紳悟さん(東北大学 3 年))の 2 団体から事例発表をしていただき、ユースの関わり方・巻き込み方などをテーマとした学び合いの場を持ちました。第 2 部は「若手の会」のこれからを考える」と題し、ワークショップ形式で若手会員のニーズや悩みなどをざっくばらんに共有しました。時間の都合から意見集約には至りませんでしたが、「まずは国内の地域間交流から始め、将来的には海外の ESD ユースとも連携したい」「同世代の研究者と実践者が集うことで、共同研究や教材開発などにつながるのでは」「セミナーや研修合宿を企画してみたい」「若手会員の研究・実践を奨励する表彰制度を設けてはどうか」「ML や LINE など、気軽に情報交換できるツールが欲しい」といったアイデアが挙がり、「若手の会」に対する期待や盛り上がりを感じました。

今後の活動としては、大会や地方研究会などに合わせた若手会員向け研修会・交流会の企画や ML 整備などを検討しています。こうしたイベントにご参加いただくことはもちろん、運営側として関わっていただく若手会員も随時募集しています。ぜひお気軽にご連絡ください！

【連絡先】「若手の会」メールアドレス：[jsESD.wakate@gmail.com](mailto:jsESD.wakate@gmail.com)

#### ◆地方研究会等の報告

##### 2018 年度中国地方研究大会

2018 年度日本 ESD 学会中国地方研究大会は 2018 年 12 月 14 日に広島大学東千田キャンパスにおいて開催された。東北・関東・近畿・四国・九州から 34 名の参加があり、内容は、一般研究発表 12 件とラウンドテーブル 1 件であった。

\*研究大会の詳細については、日本 ESD 学会誌『ESD 研究』第 2 号 pp.56-58 を参照してください。(文責 事務局)

#### ◆地方研究会等の報告

##### 関東地区研修・交流会報告

関東地区研修・交流会は、2019 年 2 月 2 日(土) 17 時～19 時、聖心女子大学グローバルプラザのアクティビティ・ルームにて開催された。高校生から教育関係者、社会人、NPO、ユネスコ協会、研究者まで関東地区の内外から幅広い方々 51 名の参加者があった。

この研修・交流会は、世界(ユネスコなど)が ESD に求めているものを知り、現在の日本の ESD に足りないもの、あるいは日本の強み、関東地区の特性、会員各自の特性や期待など、現状認識を共有し、関東地区の今後の研究や研修、あるいは交流・発信といった活動につなげていくことを目指して開催した。また、開会に際しては、日本 ESD 学会長友会長から関東地区の研究推進に対する期待のお言葉もいただくことができた。



##### 講話とワークショップ 「ESD の最前線 ESD は何処から来て何処へ行くのか」

ユネスコとのつながりの深い、聖心女子大学の永田佳之教授に、ご講話していただいた。昨年 7 月にバンコクで開かれたテクニカル・コンサルテーション会合を踏まえた「ESD の 将来に関するユネスコ・





ポジションペーパー」に至る経緯と、「人々の学習によって私たちの地球の存在がより確かなものになるように」という思いや、ポジション・ペーパーの内容構成が示された。

ポジション・ペーパーとしてまとまりきるまでの「漂白される前」が面白いという具体例も織り込みながら、どうして PP なのか、PP はいかにして準備されたか、求められるリフレクション、実施の枠組み等について話された。

ESD は何処から来たのかという来歴については、1992 年の地球サミット（アジェンダ 21 のチャプター36）によって ESD

はまな板にのせられ、2002 年の国連総会で 2005 年からの DESD が決められ、2014 年の DESD の終わり（あいち・なごや宣言）、2015 年の GAP のスタートを語り、EE と ESD の紆余曲折として、テサロニキ宣言の、「持続可能性は、環境のみならず、開発や貧困、食料、人口、人権、平和などを包括した概念である。」や「環境教育を環境と持続可能性に関する教育と呼んでよい。」などの言葉を示された。さらに、2012 年のトビリシ宣言の「持続可能な未来に向けた今日の教育」以来、「環境教育は徐々に発展し、環境教育として言及されたり ESD として言及されたりしてきた。本宣言で用いる言葉は ESD であるが、そこには環境教育がこの上なく重要であることが認知されている。」ことを示された。

また、ESD は「どこに行くのか」では、ポジション・ペーパーから、1、求められる真の変容、2、SDGs との関係、という 2 つのキー・クエスチョンを示し 1 では 3.6: Profound transformation in the way we live, think and act; ... (高い次元の変容が求められる) 2 では 3.7: ... some further critical reflection is needed around the fact that, despite its advocacy on holistic and system-wide approach, when it comes to implementation, ESD tends to be treated as a thematic topic. This has to change.

(ESD ではシステム全体に及ぶアプローチを検討してきたのに、実際の段階では 1 トピックのものとして扱われている。これは変えていかなくてはならない。広い概念なのに矮小化されている。実際のところ環境教育に限定されている)

また、コミュニケーションをしていれば ESD となっていないかななどにも言及された。

3.9: ESD can also address the interlinkages of the SDGs, (...) The marriage of ESD and the SDGs is not only a necessity but a 'win-win' for both fields. (ESD は、SDG と相互関係にも対応できます。ESD と SDG の結びつきは必要不可欠だけでなく、両方の分野にとっての「ウィン・ウィン」の関係です。) 真の変容は起きたのか、ESD は矮小化されていないか、SDGs の関係をどう考えるのかという問題の提示をした。1 では、参会者には；

- ・あなたならポジション・ペーパーに提案を書いたか。書くならばどんな提案をするか
- ・日本では「変容」は起きたのか、そういえるのはなぜか
- ・ESD の SDGs へのシフト (ESDGs : Education for SDGs) をどう思うか

これらの問いについては、グループ毎に話をしたり全体でその結果を共有したりしながら、話を進めることができた。

・変容＝良い変容なのか、ただ変わればいいわけでない、受験という現実や教科の課題が阻害している、学校で醸成された価値観を自分のものにすることが大切、変容が自分事になっていないとダメ、変容は見えないがワクチンのようなものかなど、などが話された。

ダイナミズムの消失？ ESD の矮小化という課題については、本来は地球規模の課題であること、本来は不確実性の時代における教育だから答えのない問いに向かうものであること、価値観レベルの変容をもたらすことが重要である。授業単位でなく学校単位で、学校丸ごとの取り組みであることなどの課題が

示された。

ユネスコでは、価値観、行動、ライフスタイルの変容が求められている。中でもポジション・ペーパーで強調されている価値観の変容を重視していこうということが話された。

SDGs についても、何を学ばせるか、どんな価値観を学ばせるかに偏りがちであるが、どのように学ばせるかに着目した構成主義的な揺さぶりのある学びづくりを目指そうと方向付けられた。

今回の関東地区研修・交流会に参加してくださった皆様、中でもお忙しい中ご講話を提供してくださった永田佳之教授、司会をつとめてくださった棚橋校長先生、この会の運営に協力してくださった聖心女子大学を中心にした皆様に感謝したい。

(文責：手島利夫)

＊事務局より：永田佳之先生の講話の詳細は、日本 ESD 学会誌『ESD 研究』第 2 号 pp.59-64 を参照してください。



### ◆地方研究会等の報告

#### 第 2 回近畿地方研究会

2019 年 2 月 23 日（土）12:30-17:00 に、京都外国語大学において日本 ESD 学会第 2 回近畿地方研究会が開催された。ESD を実践している教員や研究者、その他の関係者たちで、ESD の理論的側面・実践的側面に関する研究成果を共有し交流することを目的に開催し、近畿圏内外から 42 人の参加を得た。以下、研究会の結果を報告する。

##### 【開会挨拶】

最初の開会挨拶では、日本 ESD 学会会長の長友恒人氏による挨拶、続いてホスト校である京都外国語大学を代表して影浦亮平より挨拶があった。

##### 【基調講演】

続いて、京都大学地球環境学堂准教授の浅利美鈴氏による基調講演があった。環境教育の理論的側面に加え、氏による様々な実践の紹介があった。

##### 【研究発表】

研究発表の部はふたつの分科会に分かれ実施され、それぞれの分科会で 6 組の発表があり、総勢 12 組の研究発表があった。

##### 【閉会挨拶】

最後の閉会挨拶では、京都外国語大学リエゾンオフィサー（副学長相当）の堀口朋亨氏による全体の研究発表の講評と総括があった。

活発な意見交換・交流がなされ、終了後は懇親会で情報交換と交流を深めて成功裏に研究会を終了した。

(文責 影浦亮平)

＊事務局より：基調講演の概要、研究発表のテーマと発表者については、日本 ESD 学会誌『ESD 研究』第 2 号 pp.65-67 を参照してください。

#### 第 3 回近畿地方研究会

2019 年 7 月 13 日（土）奈良教育大学において、近畿地方研究会が開催された。第 2 回地方研究会を京都外国語大学において本年 2 月に開催したところではあるが、年度末に関連行事が集中していること

をふまえ、夏の開催とした。プログラムは、学会員の自由研究発表（口頭発表・ポスター発表）のほか、近年社会問題化している子どもの貧困に焦点を当て、原明子氏（東山つながりキッチン代表）をお招きし、「子ども食堂から学ぼう SDGs」というテーマで基調講演をいただいた。

## I. 日本 ESD 学会第 3 回近畿地方研究会基調講演「子ども食堂から学ぼう SDGs」講師 東山つながりキッチン代表 原明子氏

### 1. 岡山 ESD プロジェクトの頃

日本ユニセフ協会勤務を経て、2005 年より岡山市役所で ESD 専従職員として勤務した。岡山市民 70 万人を巻き込んだ取り組みを推進することが仕事だった。学校教育においては、先生方の心に火をつけ、ESD の授業実践をしてもらうことを勧めてきた。

2014 年岡山市での ESD に関するユネスコ世界会議

2015 年 ESD の岡山市での認知度は 37%だった。（同じころ、東京での認知度は 2 %）

### 2. 子ども食堂と SDGs をつなげる

ESD は「どうやったら持続可能になるだろう？」という「問い」だと感じている。それに対して SDGs は「国連で合意された答え」だろう。そして「子ども食堂」は、私にとっての「答え」だ。はじめは子ども食堂が ESD だとは思っていなかったが、今は私にとっての ESD だと思う。

「ESD は価値創造型の学び」そのためにはいろんな人たちとネットワークを作らないとできない  
◇湯浅誠さん（NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長）

貧困はお金だけでなく、人とのつながりも失っていく。その状況をなんとかしようとするたくさんの人々の取組の先に、取り残される人のない「やさしい未来」の実現を予感している。

2012 年に東京で始まる。「そんな子どもをほっとけない！」という気持ちでスタートしたが、今では子ども食堂が地域交流の場、地域づくりの場、子どもの居場所になっている。

◇「子ども食堂はやすやすと壁を乗り越えた」（貧困問題が、自分事だと思ってもらえるようになった）

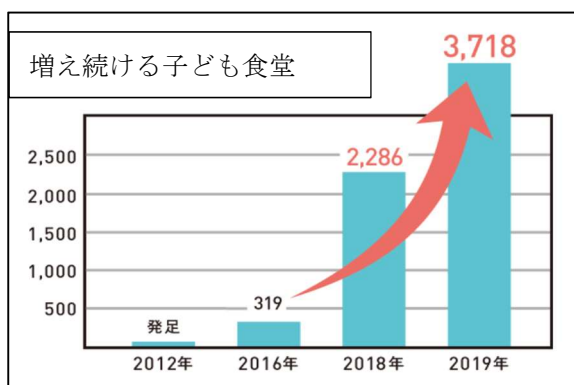
全国に 3700 か所（2019 年現在）、岡山県内にも 40 か所ある。支え合いの地域づくりのインフラ（基盤となる施設）になっている。

◇2009 年 日本の相対的貧困率が発表される「6 人に 1 人が貧困」

◇20 年で 2.5 倍に急増している。

◇特に一人親家庭の約半数が相対的貧困

◇一人親家庭の 9 割がシングルマザー



### 3. 東山つながりキッチン

#### (1) 活動状況

・月 1 回（第 3 金曜日）の開催。みんなで晩ご飯を食べている。・学区、年齢に関係なく、だれでも参加できる。・2 日前までに申し込み（子ども 100 円、大人 300 円）・50 人から 70 人が食べてい



る。

## (2) 目的

子どもを中心とした地域の温かいつながりづくりをしたいと思った

## (3) 始めたわけ

・「誰でも来れる居場所」をやりたいと思っていた（本当は自分が居場所がほしかったんだと思う）。・ドロップアウトした中高生の行き場のなさ。現状では、彼らが成長できる場所は学校しかなかった。学校以外にも、彼らが成長できる場所があればいいと思った。・「中高生といきなりつながることはできない。小さい時からの関係性が大切」とアドバイスを受け、子ども食堂から始めようと思った。



## (4) やってみて気づいたこと

・家で一人でご飯を食べているのは子どもだけでなく、高齢者もだ・子どもの6人に1人が貧困であると言われるが、そのような子がどこにいるのか見えなかった。でも、やっているうちに見えてくるだろうと思っている。・いろんな人が仕事も年齢も関係なく、子どもも加わってつながっている。つながりがふえて、居心地のいい場所になってきている。それぞれの関わり方で関わって、また日常に戻っていく。・心地いいというか、べったりしていないところがいい。・「こうじゃなければならぬ」がないところがいい・「助けているようで、助けられている」ような感覚

## (5) 最近の様子

・誰でも来てもらえる。・料理を手伝いたい子は手伝うし、遊ぶ子は遊んでいる。強制することはない。・「〇〇でなければならない」というものがない。しからない。・勝手に会話がはずんでいる。お母さんたちは片付けながらだらだら話している。・「うれない野菜をくれていたおじいちゃん」→「子ども食堂のために栽培」してくれる。・スーパーは、廃棄になる食品をくれる 学校給食に配る野菜のあまりをくれる。・防災目的の備蓄米をくれる。

## (6) エピソードいろいろ

・見た目には貧困の子どもがいるようには見えない校区・中学1年生の作文「みんながわいわいして食べているところを見たり体験したりすると、心がとけこんでいって、また来たいと自然に思うようになった」・きっちんのごはんはごちゃごちゃなのがいい。・子どもどうしの思いがけない化学反応 暴れん坊がやさしいお兄ちゃんに・おとなもつながりを求めている（どこの誰かわからない人がいつのまにかスタッフになっている）・困難を抱えた女性が「誰かの役に立ちたいんです」（生きている証として）と手伝いを申し出る（行政窓口はあるが、話を聞いてはくれない）・子どもソーシャルワーカー一家が気になる子どもを連れてきてくれた・子どもをどこかに持っていこう、進ませよう、教えようをやめた。ノーゴール、ノールールにしたことで子どもが輝き始めた・ごちゃごちゃ、いろんな人が来た・誰かがいいよ～と言ってくれるだろう・遠慮なく行ける、食べる、しゃべる、誰かの役に立つ・「自己責任」の世界から「みんなでやろう」の世界へ・子どもが荷物でない時間と空間

## (7) まとめ

・「自分たちでやってる」意識、持ち寄りが支えている（頼まれてやってない）。・子どもを中心とした地域の支え合いのプラットフォームになっている。力を取り戻すにはそういう時間、場所、仲間が必要→つながりの再構築へ（ESD）・不登校の子どもの居場所に・もうひとつの（これまで当たり前だと思っていたものと違う）価値観 で、みんな変わっていく・SDGs への貢献する人を育てられる（人から頼られる経験・大人も子どもも）場所・人から認められることで、みんなのため

に何かするようになっていく。・人と人のつながりを体験できる場・社会関係資本が豊かな地域は持続可能な地域になっていく

(文責 中澤静男)

## Ⅱ. 自由研究発表

自由研究発表（口頭発表）は、20 人の発表をいただいた。大学関係が 6 件、学校関係者が 11 件（小学校 9 件、中学校 2 件）、法人等各種団体が 2 件、学生が 1 件だった。自由研究発表（口頭発表）は、6 件の発表があった。内訳は、大学関係が 1 件、学校関係が 2 件、法人等各種団体が 3 件だった。宮城県、東京都、愛知県など近畿地方圏外から来寧いただいた方もおり、活発な研究会にさせていただいたことに感謝申し上げたい。



発表内容を見ると、近年の SDGs への関心の高まりを反映してか、ESD と SDGs との接続に言及した発表がみられたほか、新しい学習指導要領を踏まえた発表も多かった。

優れた研究や実践に出会うことは有益だが、全国大会に参加できない会員も少なくない。そのような会員のニーズに応えるための地方研究会でもある。近畿地方研究会に、圏外から多くのご参加をいただけたことは、相互に視野を広げ、問題意識を広げる上で非常に有益なことである。発表者だけでなく、例年近畿圏外からもたくさんの参加者に来ていただいていることに感謝申し上げたい。

(文責：河野晋也)

## ◆日本 ESD 学会第 2 回総会報告

2019 年 8 月 19 日（日）に、宮城教育大学において開催された日本 ESD 学会第 2 回大会に合わせ、総会が開催された(出席会員数 60 名、委任状提出者 140 名)。主な議事の内容は、2018 年度事業報告、2018 年度事会計決算報告、2018 年度事会計監査報告、2019 年度事業計画である。

### 1. 2018 年度事業報告について

2018 年度は設立 2 年目にあたり、会員の増加と共に様々なニーズが明らかになった一年間だったと言える。各理事においても、当初想定していた以上の、多岐にわたる取り組みをしていただいた。各理事から報告された主な事業内容は以下の通りである。

#### 【総務】

- ・会員数...2019 年 7 月現在正会員（411）名、学生会員（30）名、団体会員（9）。コンスタントに増加していることは、ESD 研究の発展と広がり の現れであろう。
- ・会費未納者の退会...会員増加の一方で、会費の納入状況については課題もみられる。規約に基づき 2 年間滞納者は退会とした。
- ・規則等の改正...評議員会において、以下の 3 つの規定を一部改正した。学会ウェブサイト上でご確認いただきたい。1. 会員に関する細則、2. 日本 ESD 学会選挙規程、3. 会計取り扱いに関する内規

#### 【行事・企画】

- ・大会・研究会等...2018 年度に学会が主催／共催した研究会等は以下の通りである。

(主催行事) 2018 年度大会 (2018.8.19-20 奈良教育大学) / 2019 年度中国地方研究大会 (2018.12.14

広島大学)／第2回近畿地方研究会(2019.2.23 京都外国語大学)／関東地区研修・交流会(2019.2.3 聖心女子大学)／第3回近畿地方研究会(2019.7.13 奈良教育大学)

(共催行事)学びあいセミナー(2018.8.3 宮城教育大学)／ユネスコスクール大学間ネットワーク研修会(2018.12.9 JICA 横浜)

・JMOOC との共同企画...JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)と共同で、e-learning 版の ESD/SDGs 講座を開発する。

・調査研究ワーキンググループ...国内の ESD 活動の実態、実践者と研究者の連携の実態を把握することを狙いとして、調査研究 WG の発足が承認された。

・「若手の会」...設立を提案し、評議員会で承認を得た。本総会で承認を得た。

・幹事...石丸哲史会員には、企画担当幹事として、ご協力いただいている。

#### 【渉外・広報】

・学会ウェブサイト...年間 62,000 件を超えるアクセス。後援についても、月に 1～2 件の依頼があり、社会全体としての関心の高まりが感じられる。

・展示による広報...第9回ユネスコスクール全国大会(2018.12.2)と、ESD 推進ネットワーク全国フォーラム(2018.11.24・25)において、ブース展示を行い、新たに作成したリーフレットとポスターによる広報を行った。

#### 【編集】

・学会誌『ESD 研究』創刊号...冊子体を申込者に郵送。

・学会誌『ESD 研究』第2号...投稿論文を募集・選考して刊行。応募状況は、原著論文9、総説論文2、研究ノート4、実践報告2。編集委員と査読委員によって、原則1篇を3名で査読。本大会期間中にも600円で販売。

#### 【会計】

・会費納入状況...2017年度会費納入率 88.5%、2018年度会費納入率 72.2%。会費未納者へは、全会員にメールで2回の督促を行った。2年間滞納者については、「会員に関する細則第6条」の規定により、退会を通知する。

## 2. 2019年度の事業計画について

各理事から説明された事業計画は以下の通りである。

#### 【総務】

・役員選挙...年度内に実施。会長選出・会計監査選出は、正会員の推薦による。評議員候補者は正会員である。(選挙権・被選挙権ともに2020年度会費を納入が条件。会長の3期連続、評議員の3期連続は認めない。)詳細については、年末から新年にかけて選挙管理委員会から正会員に通知がある。

#### 【行事・企画】

・地方研究会...2019年度は、近畿地方が7月に開催済み、また四国地方が来年1月25日に開催予定。

#### 【渉外・広報】

・広報...学会ウェブサイトの運用を継続していく。時おり情報を確認していただきたい。展示については、ユネスコスクール全国大会ブース展示、ESD 推進ネットワーク全国フォーラムなどを予定している。ニュースレターについては第4号、5号の発行を予定。

#### 【編集】

・学会誌『ESD 研究』第3号...投稿論文を募集。積極的な応募に期待したい。

## 【会計】

### ・会費納入のお願い

この他、総務担当理事より、会則の改正について、提案があった。第 18 条（委員会等）「会長は委員会およびワーキンググループ等を置くことができる。委員会およびワーキンググループ等の設置は評議員会の承認を必要とする。」において、“ワーキンググループ等”とすることによって、若手の会等、様々な研究・実践グループを支援する体制を整えた。

フロアからは、決算報告について、当初予算と決算との間の差額について質問があった。当初予算は、前年度の決算を参考にして作成したが、学会誌の発行や事務局の運営にかかる費用（部屋代等）など、2018 年度より必要が生じた経費があったため、当初予算に計上していない支出が増えている。今後、学会の活動がより活性化するに従って、様々な用途が明らかになってくると考えられる。事務局において適正に会費を運用していくよう努めたい。

## ◆第 1 回四国地方研究会のご案内

ESD 研修交流会（兼：日本 ESD 学会第 1 回四国地方研究会）

- ・主催：日本 ESD 学会、日本 ESD 学会四国地方研究会実行委員会、愛媛大学教職大学院、愛大・ESD ラボ
- ・共催：松山市教育委員会、愛媛大学（予定）
- ・開催日時：2020 年（令和 2 年）1 月 25 日（土）12：45－17：00（受付開始 12：00）
- ・会場：松山市教育研修センター事務所 大講義室（松山市文京町 2－1）
- ・事務局：藤原一弘（愛媛大学教育学部教育臨床講座准教授）（日本 ESD 学会四国地方研究会実行委員会委員長、愛大・ESD ラボ代表）

TEL：089-927-9531/090-7960-7906

E-mail：fujiwara.kazuhiro.xb@ehime-u.ac.jp

- ・発表者募集：学会員の研究発表を募集いたします。なお発表枠数には限りがありますので、先着順とさせていただきます。

## ◆日本 ESD 学会第 3 回大会案内（成蹊大学）

日本 ESD 学会第 3 回大会は、2020 年 9 月 19 日（土）、20 日（日）に成蹊大学（東京都武蔵野市吉祥寺北町）にて開催の予定となりました。プログラム、発表・参加申込等の詳細は決まり次第、本ウェブサイト等でお知らせいたします。多数の参加をお待ちしています。

## ◆行事・企画からのお知らせ

### JMOOC との SDGs 教育教材共同開発「SDGs 講座プロジェクト」

日本 ESD 学会は ESD の質の向上に努めておりますが、国連で 2015 年に SDGs が採択され、新たなステージに入ったと言えます。このようなとき JMOOC（一般社団法人日本オープンライン教育推進協議会）から、本学会の福井昌平理事を通じて長友恒人会長に、SDGs 講座についてプログラム共同開発の提案がありました。JMOOC は、2012 年より米国で始まった無償教育サービス「MOOC」の日本語での無償提供とその普及・拡大を目的として、2013 年 11 月に設立された非営利団体です。そこで本学会では評議員会（本年 6 月）の承認を得て、JMOOC、ESD 活動支援センター（広報担当）とともにプロジェクトベースで SDGs オンライン講座の開発・普及を進めることとしました。



JMOOC 側は阪井和男理事及び吉澤潔特命担当を中心に、学会側は担当理事の見上一幸が中心に 9 月末まで基本構想について協議を重ねました。この SDGs 講座の基本構想としては、プログラムの対象を大学学部学生 1～2 年生とする。ただし免許状更新講習や本学会の事業も含め、教師研修でも活用できることを視野に入れています。新学習指導要領でも重視されているアクティブラーニングの要素をできるだけ取り込むために、ハイブリッド講座とすることを検討中です。全体で 4 単位分とし、1 コースを 1 単位として 4 コースを準備する。さらに、各コースは 8 単元で構成することなどが決まりました。

なお、使用する画像ソースには、著作権の問題が生じない AFP のコンテンツ（1000 万枚のプロの写真家の撮ったフォトストックと 10 万点のニュース映像）を無料で活用できることになりました。開発に必要な経費は JMOOC から提供されますが、プロダクトに対する著作権の帰属等については今後の検討課題です。

現在、本プロジェクトに参加をお願いしている学会員は、長友会長の了解を得て湯本浩之会員、佐藤真久会員、及川幸彦会員の 3 名です。今年度は、時間も限られていることから 3 コースのうち 1 コースのみを制作することにしております。日本 ESD 学会の活動として相応しいものにするために、今後この製作に会員のみなさまにご協力をお願いすることになるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

### 調査研究ワーキンググループ

学習指導要領の前文や総則に明示されたことにより ESD に対する関心は一層高くなり、優れた実践も数多く報告されつつあります。また、「より公正で持続可能な世界を築くために、ESD を強化し 17 の SDGs 目標を達成する」ことを目標（Goal）とした ESD for 2030 を見据えながら、ESD に対する社会的要請に応えるためには、我が国の現状を明らかにし課題を共有することが重要です。学会創設の目的のひとつが ESD の質の向上であるだけに、現段階における我が国の ESD の現状と課題を把握する必要があります。

そこで、上記の目的を達成するための調査に係るワーキンググループの設置が 2019 年 6 月 2 日の評議員会で承認され、8 月 19 日の総会で報告されました。そこで、学校、NGO/NPO、企業等において ESD に従事している会員の ESD 活動実態から把握できた成果と課題を整理し、調査結果は広く公開して、個々の実践に活かしてもらうことにいたしました。今年度中に準備を終え、2020 年度初めにアンケートを実施し、集計および分析を行った上でその結果を 2020 年度大会にて報告できるように計画しています。以下の会員がワーキンググループとして活動することになりました。

朝日仁美（糸魚川市教育委員会）、石田好広（目白大学）、石丸哲史（福岡教育大学）、遠藤宏紀（宮城教育大学）、後藤田洋介（大阪成蹊大学）、松井晋作（桐蔭学園）、山本香織（大阪市立北津守小学校）

### ◆事務局からのお知らせ

- ・年明けに役員選挙を実施する予定です。正会員の方は、会費を納入していない場合、選挙権がなくなります。12 月中に必ず会費を納入ください。納入方法は、学会ホームページ会員募集欄をご参照ください。（ご自身の振込状況が不明な場合には、急ぎ事務局までお問い合わせください。）
- ・住所変更等があった場合には、遅滞なくお知らせください。